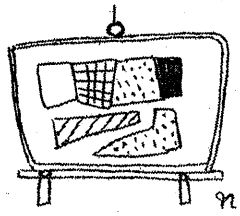
研究室だより



研究室の一隅からお便り申し上げます。

今年はカリキュラムに若干の変化がありました。第一に従来欧阿，亜豪，両米に分れていた外国地法が，世界，両米ソ連，アジアに分れ，世界は教職の単位として他の科の学生にもきかせ，毎年開講することになりました。渡辺先生の御担当です。70日間ならぬ60時間世界一週ですから，進み方も中々早く，渡辺先生の舌もいよいよ冴えようというものです。今年は店開きでよく宣伝したのでざっと90人が受講し，第一合併教室を使っています。ところが中々サボる人が多いので，途中から出席をとることにしました。新制大学は新制大学らしくーというわけです。両米ソ連は松井先生がなさることになっています。また来年度から地理調査法，写真地理学の二つの講義も開かれます。武先生の御担当で，ともに日ごろの学習やとくに卒業論文作成，巡検の際実際に役立つことを，習得する時間です。このために実体鏡も大小いくつか揃えました。

本年度の特別講義としては，前期に歴史地理（別村先生）工業地理（幸田先生）後期に中国地法（保柳先生）都市地理（木内先生）がありました。歴史地理は，先史地理，都市の歴史地理，交通史，交通と開発etc豊富な事例を挙げてのお講義でした。工業地理は，全く新しいこゝろみとしての，工業地域論のお講義で，抽象的でかなり程度が高く，私はかって在学中に幸田先に地法のお講義を伺った時は，お髪もまっ黒だったナなどとよからぬことを思い乍ら伺っていました。中国地法の保柳先生は，京城大学在勤中，何度も探検隊を組織して蒙古や華北の探検に従事なすった方です。したがって華北や，辺疆地方の講義は，具体的で興味深く，同時に，地法が地理学の中で非常に重要な部門であるにもかゝわらず，あまりさかんでない理由もかすかに判ったような気が致しました。木内先生のお講義は，きっとどなたも一度はお聞きのことと存じます。

渡辺先生は昨年8月ストックホルムで行われた国際会議御出席のため，7月20－9月23日まで主としてヨーロッパ各国を旅行なさいました。お土産話の中で最も印象に残ったのは，スエーデンという国は，あまり社会保障制度がととのいすぎ，そのため重税で，若い人の多くはファイト喪失しているということ。又老人の中にはすぐれた人物も多く，経済的な不安は全くないにもかかわらず老人の自殺が一番多い国であること。ヨーロッパの大学は学期

模が大きく，よく掃除がゆきとどいて，地理を専攻する学生も多く，卒業生があらゆる部門に進出していること，などでした。沢山のスライドと写真はまだ全部拝見していません。このごろの先生は更に今夏ホノルルで開催されるPan Pacific Science Congressのために実に御多忙で，今度はハワイのお土産がたのしみです。

われらがオジイチャマこと赤木先生は，いよいよこの3月で定年退職なさることになりました。毎年拝聴した不連続線のお講義も，もう伺えなくなります。しかし謹厳実直な先生は，国立女子大学の先生であるために，常に社会道徳の最大公約数の枠内で行動していらしたようで，4月以降は大いに羽根をのばし，自由な空気を吸って，私共を羨ましがらせて下さるそうです。又先生は今後大いにお金を儲けて大金持になりになるそうです（今がお金持でないといういみでは決してありませんが―）から，どなたもたのしみにお待ちいただきたいと思います。

渡辺先生曰く〝今カント〟の松井先生は，皆様が抱いていらっしゃるイメージそのまま，きびしい学室のあけくれをすごしていらっしゃいます。去年は科学研究費による研究のため，那須のフィールドワークを度々なさいましたし，今年は或は北海道あたりにお出掛けになるかもわかりません。清潔な研究室に入ると，いつでも読書か，またはお講義の原稿の筆をとっていらっしゃる先生のお姿があります。いまは，来るべきソ連地法にそなえて，ロシア語の地法をよんでおいでのように伺いました。全くアダやオロソカにお講義をきくとバチが当ります。

浅海先生はもうかなり以前から第二実験室（もとの赤木先生の　）の住人で，月火の2日は，寧日なく泥に埋もれて実験をつづけていらっしゃいます。時折のぞいてみても，学のない私には，試薬をまぜた液体の色の美しさや，オママゴトのように並んだ陶器やガラス器の可愛らしさばかりが印象に残ります。昔から風邪と浅海先生は，不即不離の関係のようでしたが，最近はほとんど風邪をひいたりなさいません。なんとウイールスはこのごろ井上さんや私の方を好いてくれているようです。

式先生にとって最大の出来事は，6月17日に待望の赤ちゃんがお生まれになったことです。ママ似であれば美人，パパ似であれば福々しくて可愛らしい全くしあわせな赤ちゃんは，律子ちゃんと命名されました。しかし律子ちゃんにも増してしあわせなのは，これからの地理学科の学生諸姉ではないでしょうか。なぜなら式先生がこれから律子ちゃんを通じて，いやが上にも女性に対する理解と尊敬を深めて下さることを信ずるからです。

井上さんは昨秋風邪がもとで蓄膿症になり、経過が中々はかばかしくなくて嘆いていらっしゃいましたが、先日クラス会があって、一堂に会したところによれば、誰もがどこかしら悪くて、大いに安心なさいました由、どうも〝年のせい〟らしいとのことです。異論のお有りの方はどうぞ。問題の鼻はとうとう手術ときまりました。このごろ靴のおしゃれに凝って、色とりどりのステキな靴を沢山お持ちですから、どうぞ足許に御注目下さい。

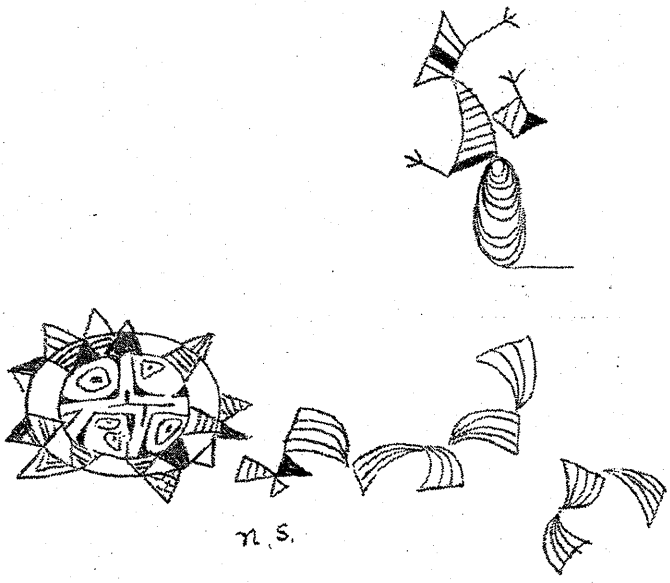
おかげ様で、私は相変らず元気でございます。しかし仕事と家庭をちゃんと割り切って上手にさばいているわけでは決してなく、いつもどちらも不十分でアップアップしています。昨年秋母が身体を悪くして、大方皆様に御迷惑やら御心配やらおかけ致しましたが、もうほとんどよくなりました。子供を母にあずけてあるものですから母に故障が起きると忽ち困ってしまい、やはり子供をかかえて勤めるためには、もっと抜本的な対策を考える必要があることを痛感いたしました。子供が2人になって感ずることは、費消するエネルギーと時間は1人の時の倍でなくて、2乗であるということ、（これは相関関係を生ずるからです。）でも子供は絶対に複数がいいということ、最初の子と2番目の子とでは、親は同じに育てているつもりでも、子供にとっては環境が大いに違うということ、それに対処するために長子と次子では大いに性格が違うこと等々、全く興味深々たるものがあります。でと〝子を持って知る親の恩〟などということばはウソだと思います。子供が出来て、子供を抜きにした生活を考えてみると、全く〝子をもって知る子の恩〟といいたい位で、親が子を育てるのは当然なのに、恩よばわりをするのはおこがましいことのように思えます。

〝地理〟第1号発刊以後の卒業生のおめでた（不連続線）は次の通りです。1回生青野さん、篠川さん、4回生小菊屋さん、讃岐さん、5回生岡田さん、深尾さん、7回生野田さん、8回生金子さん、西村さん。卒業生のミセス人口、ママ人口がだんだんふえて来るのは当然のこと乍ら嬉しいことです。中でも赤ちゃんをかかえて職場についていらっしゃる方の御努力には、いろいろ問題もお有りのことと本当に頭の下るような気がいたします。1年に1度気候のいい時に、お子さん連れで全卒業生が集まって交歓する日があったら、どんなにいいでしょう。

それからこれは悲しいおしらせですが、井上さんの前に松井先生の助手さんだった佐藤（長）翠さんが、昨年6月にフランスで亡くなられました。大そうしあわせな、元気な毎日をすごしていらっしゃると伺っていただけに、まことにあっけなく、言葉も出ませんでした。8月6日に学士会館で追悼会

があり、卒業生の方も若干見えました。

今年は、専攻科に、台湾の师範大学出身の才媛王月鏡さんがいらしています。日本語がお上手なので外国の方だということを忘れる位です。皆と一しょに巡検や旅行など大いに積極的に活動していらっしゃいます。

では皆様御自愛専一に、御活躍をお祈りいたします。

（本教室助手）